

岩下清周

老川慶喜

立教大学の「校友会名簿」を見ると、その最初の頁に「岩下清周」の名がある。岩下清周は北浜銀行の頭取で、明治・大正期に活躍した著名な実業家であるが、かれが一八七四（明治七）年にウイリアムス主教が築地に起こした立教学校の第一回卒業生であったということはあまり知られていない。

岩下清周は、安政四（一八五七）年五月二十八日、信州松代藩士族の岩下左源太の二男として生まれた。一八七四年に上京し、海軍兵学校の入学試験を受けたが、体格の面で不合格となった。岩下少年の夢はもろくも挫折したが、同年の冬、築地に開校したばかりの立教学校に入学した。立教学校で英語を学び、大学南校（東京大学の前身）の受験に備えようとしたのである。立教学校時代の友人河島敬蔵は、当時の岩下を「勉強と云つたことよりは、世故に通ずることに日夜注意して」おり、「学生らしからざる学生」であったとしている。しかし、岩下は伝道には非常に熱心で、夜間品川あたりに出て盛んに辻説法をやり、ウイリアムス主教から洗礼も受けた（故岩下清周君伝記編纂会編『岩下清周伝』一九三二年）。

もともと実業家志望であった岩下は、一八七六年、開校したばかりの東京商法講習所（一橋大学の前身）に入学した。岩下は、校長の矢野二郎に才能を見出され、卒業後は同講習所の教諭となったが、七八年に三井物産に入社し、馬越恭平のもとで実業界への第一歩を印した。三井物産では、八〇年にニューヨーク支店長となり、八三年から八八年までフランス支店長となった。八九年に三井物産を辞め、品川電灯・関東石材・米穀取引所などの事業を手がけるが、九一年に中上川彦次郎に招かれて三井銀行副支配人となった。九五年に大阪支店長となり、大阪財界との関係を深めるが、九六年に横浜支店長勤務を命じられると三井銀行を退職し、北浜銀行の創立に関与した。岩下と北浜銀行との関係は、「岩下の北銀」「北銀の岩下」と言われるほどで、北浜銀行は岩下の事業の中心となった。

岩下清周は、投資銀行的な発想をもって北浜銀行の経営にあたり、大阪築港公債や阪鶴鉄道・播但鉄道・唐津興業鉄道・大阪合同紡績・和歌山水力電気・東洋捕鯨・箕面有馬電気軌道・日本製鋼・大日本セルロイドなどの社債を積極的に引き受けた。当時、銀行経営は預金と貸付金の利鞘をとるものと考えられていたので、岩下のような発想は斬新であった。また、岩下は才賀藤吉の才賀商会（電気事業）や森永太郎の森永製菓など、当時の

新産業に対しても積極的な融資を行った。次表は岩下が関係した事業を紹介したものであるが、事業の中心は鉄道・電気・水道・瓦斯などの公益事業、銀行や取引所など金融関係、さらには紡績業などであった。営口水道電気・南満州鉄道・東洋拓殖など、「満州」や朝鮮の事業にもかかわっていた。岩下は「工業立国論」を持論としていたが、その面目躍如たるものがある。

岩下清周はこのように旺盛な事業活動を展開したが、ウイリアムス主教への尊敬は生涯変わらなかつた。ウイリアムス主教の訃報を聞いた岩下は、「奨学金等翁の記念的事業の計画あらば、応分の寄付をしたいと申込んだ」（有富虎之助『老監督』紅潮社、一九一五年）のである。こうした岩下の行動を見て、有富虎之助は「曾て或る雑誌記者に「予は無宗教、無信仰なり」と語つた清周氏も、老監督（ウイリアムス主教；引用者）の聖徳には感心せられて居ると見える。翁を思ふ時には彼も嘗て東京九段坂辺で伝道説法に熱弁を揮つた紅顔寧馨の青年時代を偲ぶであらう」と語つた（同前）。

岩下が、いかにウイリアムス主教を尊敬していたかは、みづからが後年「僕はキリスト教の教理や儀式の力に動かされたのではない。又天国を説く牧師の説教に動かされたのでもない。率直に言えば、神の心を説く牧師の眞実の力と敬虔なる祈に動かされたのである」（前掲『岩

下清周伝』）と述懐していることから明らかである。岩下清周の長男莊一は司祭となつたが、父の葬儀に際して「父は信州一藩士の家に生れ、少壮学に志して東京に出て、故矢野次郎先生の門に趨つて商業学を修め、卒業の後、三井家に入つて世間人と成つたのであります。其の間学生としては、学業の傍ら基督教の伝道に従ふたこともあり、米国へ渡航の際、海上に一船の漂流するを発見して之を助けたるなど、天を畏れ義を重んずる人であつたのであります。後ち北濱銀行を創設して財界に独立するに至つても、常に世の爲め人の爲といふを先にして、自己の利名を後にした精神は、之を窺ふに足るものがあります」と評した。これこそ、岩下清周に関するもっとも妥当な評価と言えよう。

【参考文献】

- 故岩下清周君伝記編纂会編『岩下清周伝』一九三一年。
宮本又次編『企業家群像』清文堂出版、一九八五年。
海原卓『世評正しからず 銀行家・岩下清周の闘い』東洋経済新報社、一九九七年。

1897年1月設立、同年2月15日開業
取締役（1911年7月～14年12月）
1906年8月設立（資本金100万円）
1912年4月設立（資本金500万円）、電気事業に対する投資。
肝煎を辞職後三井銀行に入行。
1907年10月設立、08年10月社長就任。
1910年9月設立、取締役に就任。1912年12月社長就任。
1902年に経営に関与、1904年1月社長就任。
取締役（1907年4月～15年4月）
1910年6月設立（資本金300万円）。のち、広島瓦斯と合併して広島瓦斯電軌となる
1910年3月設立、監査役就任。のち、南海鉄道と合併。
1906年11月設立、監事就任。
1889年設立、三井物産退職後最初の事業
1910年10月設立、取締役に就任。大株主（1000株）。
1913年4月設立。才賀商会（電気事業）の営業・資産および負債を継承。
日支合弁事業の嚆矢
1909年10月設立（資本金150万円）。のち、広島電気軌道と合併して広島瓦斯電軌となる。
監査役（1906年1月～15年10月）。北濱銀行で6000株を引き受ける。
1900年1月設立、谷口房造との個人的な関係
1912年5月設立、取締役就任（1915年6月まで）
1903年設立、増資に関与。
経営再建のため1890年10月取締役、のち社長に就任。再建は失敗。
1907年6月設立（資本金1000万円）

表 岩下清周の関係事業

	会 社 名	役 職
【銀行】	北濱銀行	頭取
	日本興業銀行	創立委員
	帝国商業銀行	取締役
【保険】	萬歳生命保険	取締役
【信託】	電気信託	取締役会長
【取引所】	東京米穀取引所	肝煎
【鉄道】	箕面有馬電気軌道	社長
	大阪電気軌道	社長
	西成鉄道	社長
	阪神電気鉄道	取締役
	広島電気軌道	取締役
	阪堺電気鉄道	監査役
	南満州鉄道	監事
【電灯・電力】	品川電灯	社長
	鬼怒川水力電気	取締役
	日本興業	取締役会長
【水道・瓦斯】	営口水道電気	社長
	広島瓦斯	取締役
	大阪瓦斯	監査役
	堺瓦斯	監査役
【紡織】	大阪合同紡績	取締役
	和泉紡績	取締役
【その他】	豊田式織機	取締役
	三星炭鑛	取締役
	東洋拓殖	創立委員
	関東石材	社長
	日本醤油醸造	取締役

出典：故岩下清周君伝記編纂会編『岩下清周伝』1931年。